

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】平成26年3月6日(2014.3.6)

【公表番号】特表2012-504540(P2012-504540A)

【公表日】平成24年2月23日(2012.2.23)

【年通号数】公開・登録公報2012-008

【出願番号】特願2011-529500(P2011-529500)

【国際特許分類】

C 0 4 B 16/06 (2006.01)

C 0 4 B 28/02 (2006.01)

D 0 4 H 1/4291 (2012.01)

D 0 4 H 1/4309 (2012.01)

【F I】

C 0 4 B 16/06 A

C 0 4 B 16/06 B

C 0 4 B 16/06 E

C 0 4 B 16/06 Z

C 0 4 B 28/02

D 0 4 H 1/42 K

D 0 4 H 1/42 M

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年1月9日(2014.1.9)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

繊維 - セメント製品の製造のための組成物は、ポリプロピレン繊維(A)と他の合成有機繊維(B)とを含む組成物であって、

前記組成物は、セルロース繊維を含み、

前記ポリプロピレン繊維(A)は、6.0 d t e xよりも高く、かつ20.0 d t e xよりも小さい繊維と、8 ~ 25 mmの長さを有し、かつ

前記合成有機繊維(B)は、少なくとも0.5 d t e xで、かつ15.0 d t e x未満の繊維を有するポリ(ビニルアルコール)繊維(B1)か、少なくとも0.5 d t e xで、かつ3.0 d t e xよりも小さい繊維を有するポリプロピレン繊維(B2)か、あるいはそれらの混合の中から選択されることを特徴とする、組成物。

【請求項2】

請求項1の組成物は、前記ポリ(ビニルアルコール)繊維(B1)が少なくとも1.0 d t e xで、かつ10.0 d t e x未満の繊維を持つことを特徴とする。

【請求項3】

請求項1または請求項2の組成物は、前記ポリプロピレン繊維(B2)が少なくとも0.7 d t e xで、かつ2.5 d t e xよりも小さい繊維により特徴付けられていることを特徴とする。

【請求項4】

請求項1 ~ 3のいずれか1項に記載の組成物は、前記ポリプロピレン繊維(A)が少なくとも10.0 d t e xで、かつ18.0 d t e xよりも小さい繊維を有することを特徴

とする。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の組成物は、前記ポリプロピレン繊維 (A) が 1.0 mm ~ 1.5 mm の長さを有することを特徴とする。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の組成物は、前記繊維 (A) 及び (B) は、少なくとも 8 cN/dtex のテナシティーを有することを特徴とする。

【請求項 7】

請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の組成物は、前記組成物の初期乾燥総重量に対して $0.05 \sim 5.0$ 重量%の繊維 (A) を含むことを特徴とする。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の組成物は、前記組成物の初期乾燥総重量に対して $0.5 \sim 5$ 重量%の繊維 (B) を含むことを特徴とする。

【請求項 9】

請求項 7 の組成物は、 $0.1 \sim 1.5$ 重量%の繊維 (A) を含むことを特徴とする。

【請求項 10】

請求項 8 の組成物は、 $0.5 \sim 3.5$ 重量%の繊維 (B) を含むことを特徴とする。

【請求項 11】

請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 項に記載の組成物は、前記ポリプロピレン繊維 (A) が少なくとも 160 cN/dtex のヤング率によって特徴付けられていることを特徴とする。

【請求項 12】

請求項 1 ~ 11 のいずれか 1 項に記載の組成物は、前記ポリプロピレン繊維 (A) が 17% 以下の破断点伸びによって特徴付けられていることを特徴とする。

【請求項 13】

請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 項に記載の組成物から製造された繊維 - セメント製品。

【請求項 14】

Hatschek 技術が用いられている、請求項 13 記載の繊維 - セメント製品。

【請求項 15】

扁平又は波形のシートであることを特徴とする、請求項 13 または 14 に記載の繊維 - セメント製品。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

文献 JP 2004 - 352556 は、 2 又は 2.2 dtex (tex は繊維の単位長さ当りの質量の S.I. 単位として使用され、 $10^{-6} \text{ kg} \cdot \text{m}^{-1}$ と等しく、それゆえ、 dtex 又は decitex は $10^{-7} \text{ kg} \cdot \text{m}^{-1}$ と等しい) を持つ PVA 補強繊維と、 2.2 dtex の繊度により特徴付けられたポリプロピレン繊維とを含む水硬性組成物を開示する。しかしながら、そのような組成物から得られた繊維 - セメントの板は、例えば屋根材への応用、より詳細には空気中に存在する二酸化炭素に晒されている間の自然な経年変化後に使用された時、不十分な衝撃抵抗を有する。特許出願 EP - A - 1854770 は、少なくとも 4.0 dtex で、 15.0 dtex 未満の繊度によって特徴付けられたポリ (ビニルアルコール) 繊維と、少なくとも 1.5 dtex で、 3.0 dtex 未満の繊度のポリ (ビニルアルコール) からなる繊維か、少なくとも 0.7 dtex で、 3.0 dtex 未満の繊度を持つプロピレンのポリマー又は共重合体からなる繊維か、あるいはそれらの混合の中から選択された合成有機繊維とを含む繊維 - セメント物品の製造のための組成物を開示する。これらの組成物から製造された製品は、従来技術に対して向上された衝

撃抵抗を有するが、改良の必要性がまだある。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

このため、本発明による組成物は、ポリプロピレン繊維(A)と合成有機繊維(B)とを含むことを特徴とし、ポリプロピレン繊維(A)は6.0 dtexよりも高く、かつ20.0 dtexよりも小さい繊維度を有し、かつ合成有機繊維(B)は、少なくとも0.5 dtexで、かつ15.0 dtex未満の繊維度を有するポリ(ビニルアルコール)繊維(B1)か、少なくとも0.5 dtexで、かつ3.0 dtexよりも小さい繊維度を有するポリプロピレン繊維(B2)か、あるいはそれらの混合の中から選択されることを特徴とする。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

6.0 dtex以下の繊維度を有するポリプロピレン繊維(A)を含む組成物は、より低い衝撃抵抗を持つ繊維-セメント物品をもたらす。少なくとも20.0 dtexの繊維度を有するポリプロピレン繊維(A)を含む組成物は、劣った拡散性に難点がある。好ましくは、本発明による組成物は、少なくとも10.0 dtexで、かつ18.0 dtexよりも小さい繊維度を有するポリプロピレン繊維(A)を含む。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

本発明による組成物は、少なくとも0.5 dtexで、かつ15.0 dtex未満の繊維度を有するポリ(ビニルアルコール)繊維(B1)か、少なくとも0.5 dtexで、かつ3.0 dtexよりも小さい繊維度を有するポリプロピレン繊維(B2)か、あるいはそれらの混合の中から選択される合成有機繊維(B)を含む。0.5 dtexよりも小さい繊維度を有するポリ(ビニルアルコール)繊維(B1)を含む組成物は、劣った加工性に難点があるのに対し、少なくとも15 dtexの繊維度を持つポリ(ビニルアルコール)繊維(B1)は劣った分散性に難点があり、要求された機械的特性を持たない繊維-セメント製品を導く。少なくとも1.0 dtexで、かつ10.0 dtex未満の繊維度を持つポリ(ビニルアルコール)繊維(B1)を含む組成物は、好ましい。0.5 dtex未満の繊維度によって特徴付けられたポリプロピレン繊維(B2)を含む組成物は、繊維-セメント製品の製造中に加工性の問題を生じる。ポリプロピレン繊維(A)とポリプロピレン繊維(B2)とを含み、後者が少なくとも3.0 dtexの繊維度によって特徴付けられている組成物は、分散問題を生じ、それゆえ劣った機械的特性を持つ繊維-セメント製品を導く。少なくとも0.7 dtexで、かつ2.5 dtexよりも小さい繊維度を持つポリプロピレン繊維(B2)を含む組成物が好ましい。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

実施例

繊維の特徴が表1に与えられる。

【表1】

表1

繊維	種類	繊度 (dtex)	長さ(mm)	テナシティー (cN/dtex)	E-弾性率 (cN/dtex)	破断伸度(%)
繊維(A)(1)	PP ^(a)	11.4	13	11.0	188	12.4
繊維(A)(2)	PP ^(a)	11.4	25	11.0	188	12.4
繊維(B1)(1)	PVA ^(b)	2.0	6	14.3	359	5.7
繊維(B1)(2)	PVA ^(b)	7.0	6	11.5	290	6.4
繊維(B2)	PP ^(a)	0.9	6	9.5	116	21.9

(a) PP：ポリプロピレン

(b) PVA：ポリ(ビニルアルコール)